
Holy Knight

ティア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

H o l y K n i g h t

【Nコード】

N 0 9 4 3 B

【作者名】

ティア

【あらすじ】

かなり久しぶりの投稿です。この短編はB u m p O f C h i c k e n の『K』という曲をもとにして作りました。一匹の猫が一生忘れられない人と出会います。その人とは・・・？

(前書き)

《内は、黒猫・》『内は、黒猫にとって忘れられない人・』内は、人間になってます。

俺は週末で賑わっている大通りを威風堂々と歩いている。

鍵のように先が丸くなった尻尾を水平にして。

俺は普通に歩いているつもりなのに人間どもは、俺のこの態度が許せないらしい。

そのせいか、石を投げられることが度々あった。

まあ、孤独には慣れてるし、一人の方が楽だし。

《誰かを思いやるなんて、そんなだるい事やってられるかよ。》

そう思っていた俺は急に誰かに抱き上げられた。

がっちりした腕。男・・・？

『こんばんは。素敵なおチビさん。僕達ってよく似てるって思わない？』

人間の男は俺を抱き上げると、そう言っただ俺に笑いかけた。

俺はそいつの腕の中で暴れた。

そいつの腕を引っ掻いた。

『痛っ！！』

そう言っつて腕を離した。

《今だ!!》

俺は飛び降りて必死で逃げた。

孤独という名の逃げ道を。

俺はビツクリした。

初めて人間の優しさに触れたから・・・

生まれて初めて味わった温もりが忘れられなかった・・・

俺がどれだけ走っても、その変わり者は俺を追って付いて来た。

俺は奴に捕まった。そして奴の家へと連れて行かれた・・・。

奴の仕事は絵描きらしい。家の中にはたくさんの絵が飾られていた。

『君、名前は?』

そいつはいきなり俺の名前を聞いてきた。

《俺に名前なんてあるわけねえよ。人間に嫌われてるんだからよ・・・》

通じないと分かっつていても、俺はそう言っつた。

『今日から君の名前はH O I Y N i g g h t ね。』

《ほーりーないと・・・》

カッケエじゃん。

俺はそいつと二度目の冬を過ごした・・・。

すっかり仲良くなり、俺は初めての友達にくっついて甘えるようになった。

そいつも、毎日俺の絵を楽しそうに書いてる。

『どっつ？似てる？』

《それが俺かよ〜俺はもっとカッコイイよ〜》

もちろん互いに言葉は通じない。

でも毎日楽しく過ごしている・・・

が、ある日突然。

バタツ！！！！

奴が倒れた。

最近貧しくて、ろくに飯も食っていない。

《大丈夫か！？》

俺は奴の近くへと近づいた。

すると奴は一通の手紙を俺に渡した。

『こ・・これを・・俺の恋人に渡して・・くれないか・・？俺の夢が叶うまで待ってて・・くれると言ってくれた・・俺の愛する恋人に・・』

そう言つて奴は冷たくなった・・。

《俺の絵を描いて売ろうとしてたなんて・・バカだろ・・嫌われ者の俺の絵なんて買う奴いねえって・・》

《でも・・ありがとな・・あの日・・俺を抱き上げてくれて・・嬉しかったよ・・今度は俺がお前を助けてやるよ・・お前の頼みなら何処までも走つてやるよ・・》

俺は奴の手から手紙を取つて口にくわえた。

《手紙は確かに受け取ったからな・・》

俺は雪の降る山道を走つた。今は亡き親友との約束を口にくわえて。

「見るよ〜!!アレ!!」

「うわあ〜!!悪魔の使者だああ!!!!」

人間のガキどもが俺に石を投げってくる。

《何とでも呼べよ!!ガキども!!俺には・・ぜってえ消えない

名前があるんだぜ《

『Holy Night』

聖なる夜と呼んでくれた・・・。

優しさも温もりも全部詰め込んで呼んでくれた・・・忌み嫌われた俺にも意味があるとするならば・・・この日の為に生まれてきたんじゃないのか・・・？

俺はやっと辿り着いた。

親友の故郷に・・・

《あいつの恋人の家まであと数キロだな》

走った。

転んだ。

すでに満身創痍だ。

俺が立ち上がろうとした瞬間・・・

「出て行け！！！」

「来るんじゃないよ！！！」

街の奴らが俺に罵声を浴びせたり、暴力をしたりしてきやがった。

《負けねえ！！俺はHoly Knightだぞ！！》

俺は千切れそうな手足を引き摺りながら走った。

《見つけた！！この家だ！！》

バタツ・・・

恋人は玄関先に倒れていた黒猫を見つけた。

口に手紙をくわえた黒猫を・・・。

その手紙を読んだ恋人は夢を叶えるために家を出て行った自分の愛しい人が亡くなったのを知り、嘆き悲しんだ・・・。

そして、もう動かなくなった黒猫を自分の家の庭に埋めてやった。

彼の名前にアルファベット一つを付け加えて・・・。

Holy Knight 聖なる騎士

『K』

(後書き)

どうだったでしょうか。

あまり自信が無いんですが、私的には頑張りました。
良かったらコメント下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0943b/>

Holy Knight

2011年1月23日23時52分発行